



希望ヶ丘



○ 令和6年(2024年)がスタート



今年の干支は「辰(たつ)」です。そして、閏年(うるうどし)、オリンピック・イヤーとなりました。夏季オリンピックがフランス・パリで、7月26日(金)から8月11日(日)の日程で開催されます。この期間に、32競技 329種目が実施されるそうです。パラリンピックは、8月28日(水)から9月8日(日)で開催されます。東京オリンピックからまだ3年しかたっていないので、すごく早く感じてしまいます。今年のオリンピックはどんなドラマが繰り広げられるのでしょうか。楽しみですね。

本校でも、3年生が進路決定の佳境に入ります。1月18日(木)は面接練習になります。高校進学への熱意をしっかりと伝えられるように準備していきましょう。1、2年生も進級に向けて、最後のまとめの時期となりました。1月11日(木)は、1、2年生の静岡県学力調査テストがあります。それに合わせて3年生は実力テストとなります。今年は「昨年まで努力してきたことが、実を結んで成就する年」だそうです。ぜひ、龍のごとく、突き進んでいきたいですね。

○ 吉原第二中学校の校歌をめぐる

新年のはじまりに、今月の学校だよりでは、校歌について記載させていただきます。

先日、「吉原二中の卒業生ですが、校歌の作詞・作曲者のお名前を教えてください。」というお電話をいただきました。残念ながら、我々教員もコロナ禍で赴任した学校の校歌は、聴く機会も、歌う機会も少なく、校歌というものに疎遠になっていました。体育館にある木彫の校歌を確認すると、そこには「作詞 神保 光太郎、作曲 高田 三郎」とありました。そのことをお伝えすると、「やっぱりそうだったんですね。お二人が作ってくれた校歌が、私たちの誇りでした。」と大変喜ばれていました。

校歌への熱い思いが伝わり、事務室で確認したところ、以前にも校歌のことで問い合わせがあったということでした。HPで検索してみると「作詞 神保 光太郎、作曲 高田 三郎」の情報は大量に出てきました。校歌の作詞・作曲者として、お二人は有名で、第一人者のようでした。

このことを職員室で話すと、スクールサポートスタッフの川口先生から、更に有力な情報が寄せられました。川口先生のお父様は、開校当時の吉原二中に勤務していたそうです。その頃の詳しい記録があるということなので、一部を紹介させていただきます。



富士市立吉原第二中学校 初代校舎

川口先生のお父様の記録より

新設校なのでいろいろなことをやらされた。理科室のコンセントが少なくて不便だったので、電気工事の資格を持っていた西山先生と天井裏に上がって配線工事もやった。当時どこの学校にもなかった気象観測設備が在り、台風時には消防署に頼まれてデータを提供した。ところが粗悪品だったのか故障が多く、暴風雨の中、三輪先生と屋根に取り付けられた風力計などの修理をしたこともあった。

渡辺賢一校長はどこからひねり出したのか知らないが、ずいぶんと思いついた資材を購入していた。どこの学校にもなかったテープレコーダがあり、理科準備室にはマイクローム、恒温装置などがあった。地下倉庫もあった。恒温装置を使って発酵させ、XXXXXXXXXX
XXXXXXXXXX納豆を作ったりした。校長はピアノもスタンウェイでなければと中古を探してきた。校歌も最高のもをと法政大の神保教授、著名な作曲家高田三郎に頼んだ。神保教授は何日か滞在して吉原市、学校の姿を十分調べた上で作詞した。何校か勤め校歌を聴いたが、二中の校歌が最高だと思っている。生徒には最高のもをとという校長の考えであった。

吉原第二中学校の開校当時の先生方の熱意や苦勞を感じとることが出来ますね。しかも、当時の最先端の機材をそろえた中学校だったのですね。何校も勤めている先生が、吉原二中の校歌は最高だと言ってくれていることは、とてもうれしいことです。生徒には最高のもをとという校長先生の思いなど、当時の生徒が誇りに思うのも頷けます。また、文中の風力計を修理した三輪先生というのは、1年1組担任の三輪 新先生のお祖父様だそうです。この文章を書かれた川口先生のお父様が尊敬していた先生だったそうです。川口先生からのお話を聞いて、先生から生徒へ、先輩から後輩へと伝えられていく思いがたくさんあって、吉原二中の伝統が育まれていったのだと思いました。

今の吉原二中にも、「自分から」という分かりやすい重点目標と、それを実践するための「自分磨きの日」や「自分でつくるお弁当の日」、そして生徒会主催で作り上げた蒼華祭やニチュモンなどがあり、これほど自校の目標を意識した取り組みを実施している学校を誇りに思います。広くて新しい体育館もお気に入り「富士市最高のものだ」と言えるものが、いっぱいあります。

さて、話は変わりますが、最後にクイズです。恒温装置を使って納豆を作っていたようですが、黒塗りの部分にもう一つ何かを作っていたようです。私はびっくりしてしまいました。皆さんは、なんだと思いますか？当時の在校生がご家族にいたら、話を聞いてみてください。

後日、川口先生から「富士市立吉原第二中学校 創立 30 周年記念誌 希望ヶ丘」を借りしました。中を見ると「校歌の思い出」というタイトルで赤渕 秀心という方と、神保先生との後日談が記載されていました。一部を掲載させていただきます。

「作詞にあたって、富士山をどのように表現したらいいか、これが一番むずかしかった。」と後日話しておられた。また「希望の丘」と名づけてくれたのも先生である。

敷地北側にある「希望ヶ丘」や、学校だよりのタイトルは、「希望ヶ丘」ここからきているのですね。また、開校当初の4部合唱だった頃の「まぼろしの校歌の楽譜」も記載されていました。

吉原二中の校歌をめぐり、お宝を発見しました。

文責 教頭 田村 聖一
電話 51-1115